



Subaru

ニュース781 '22.6.5

男声合唱団

「千秋昌弘テノール 喜寿コンサート」 満席に近い聴き手の心に響く「炎の魂」 のうた！

5月22日



□ 2022年5月22日(日)14:00より、クレオ大阪東ホールにて、「千秋昌弘テノール喜寿コンサート」が開催されました。

当日は、千秋さんのさまざまな知己のかたがたが来聴され、会場はほぼ満員となり、「うたごえ」運動のなかで2回目のソロコンサートを開催する、若々しく力強い千秋さんのうたごえが、「炎の魂」を呼び起こしました。

□ 第一部では、「大いにうたう」のテーマで、元気づけのオープニング曲「沖揚げ音頭(ソーラン節)」が、明るく爽やかな声で始まりました。

そして、コロナの失政が許せないと、コロナで命を奪われた千秋創作曲「奪われた友の命」、広島原爆記念館と広島ヒバクシャの思いを、「ヒロシマ、母の怒り語りつぐ」と続けました。

多くの歌いたい曲を持っておられる千秋さんの得意分野、「星をお前は」「かあさんの歌」「わが母のうた」「ヨイトマケの唄」と、いつ聴いても、爽やかで、涙が出そうで、「母」を思い出して、力づけられる曲が並びました。

□ 第二部では「千秋昌弘ゆかりの合唱団」と、千秋さんが所属している4合唱団（「男声合唱団 なにわ」「関西紫金草合唱団」「ロシア民謡合唱団」「男声合唱団「昂」」）が壇上に上がり、それぞれの得意の曲を披露しました。

□第三部では、素晴らしいテノールの声がどこから出るのか？今も熱心に、声楽を発声から学んでおられる彼の声楽曲の一端、ブッチーニ曲「星は光りぬ」、シューベルト曲「アヴェマリア」、カプア曲「オソレミオ」を、そして、最近、熱心に、森二三さんと共に作っておられる数々の創作曲の中から、「アウシュビッツを生き延びた77番」、「命のビザ（査証）」、そして、今ロシアのウクライナ侵略を糾弾して、多くの演奏会で盛んに歌われている「キエフの鳥の歌」を、エンディングには、千秋創作の「終わりの始まり(ノーモア・ヒロシマ)」で、彼の思いを歌い上げられました。(y)

千秋昌弘テノール喜寿コンサート(2022年5月22日 クレオ大阪東)

を聴きました

大阪府庁うたごえ合唱団 小池 哲夫

千秋昌弘さんは、独特の経歴をお持ちの歌手です。小さいときからうたが好きで、というのは私たちと変わらないですが、うたごえ運動に入ってもなく、大阪府大東市の市会議員となられ、7期28年の長きにわたり、市民の暮らしを守る先頭に立って活動しながら、58歳になって声楽の勉強をはじめられました。その後議員を引退されて男声合唱団「昂」の団長となられ、今度は作詩に取り組み、合唱団の伴奏者である森二三さんとペアを組んだ創作活動で、5年ほどで100曲以上を創り、今回のコンサートでも5曲演奏されました。作品名は、コロナで亡くなった友人のことをうたった「奪われた友の命」、「ヒロシマ 母の怒り語り継ぐ」、「アウシュビッツを生き延びた77番」、「命のビザ（査証）」など。千秋さんの想いが伝わってきます。コンサート名にもある通り、喜寿での開催予定でしたがご存知の事情により2年延びて、もうすぐ79歳になられるそうです。

リサイタルということで、独唱で14曲。仲間の合唱団の一員としても歌われましたので、合わせて23曲。2回の休憩はありましたが2時間15分ずっとステージで演奏。すべて暗譜。もちろんマイクなどなし。高音を含む長いフレーズもワンプレスで歌いきる、その度胸がすばらしいです。声のみずみずしさはとて79歳とは思えません。

私たちに大きな励ましを与えてくれたこのコンサート。千秋さんのこれからのいっそうの活躍をお祈りします。

我が団長を語る

男声合唱団昂 立川孝信

我らが男声合唱団昂の団長は「千秋昌弘」78歳である。

先日5月22日にソロコンサートを大阪クレオ東で314人ちょうど満員で成功させた。

6～7割は彼の人脈で組織した。彼の住む大東市にポスターを貼り巡らせ、友人知人は勿論、昂コンサートのアンケートに住所のある人には手紙を送って組織した。ポスターを見た町会の支持者から券の申し込みもあった。というのは彼は36歳から7期28年間大東市の市会議員を務めた。偏った解放教育をなくすなど同和行政を終結させた。副議長まで務めたが胃癌の為に議員生活を終えた。

小さいころから歌好きで、働きずくめの母がいない寂しさを歌で紛らわした。

大学で「うたごえ」に出会い、関西合唱団を経て歌舞団若駒で活動するなど歌心は忘れなかった。58歳で本格的に声楽を習い始めた。そんな中集会などソロをする機会も増えてきた。何度も中国で公演した「紫金草物語」の兵士のソロ、昂などで歌う「地底のうた」の炭鉱夫のソロ・荒木栄の「わが母の歌」は大きな拍手をもらえる歌の一つとなった。

年金生活では毎月5万円の音楽代が出ないので、いまだにビル管理清掃の仕事が続けている。議員などの経歴よりも身を粉にして働きながら歌い続けることが好きなのだ。

所属する合唱団は男声合唱団昂・関西紫金草合唱団・ロシア民謡合唱団コスモス・男声合唱団なにわ等である。

昂では長期に渡って団長を務めている。コンサート最後の団長挨拶は必ず熱い団員募集の言葉で締めくくる。というのも彼の中での昂への思いは80名の団にすると思っているからだ。その思いが観客に伝わるのかアンケートに団長のソロと挨拶が良かったと書かれている。

しかしコロナ禍の中・高齢化の中、本当に厳しい現状があるが、そんな中で取り組んでくれた78歳での喜寿ソロコンサートはどれだけ多くの人々を励ましてくれただろう。

客席からは「米寿コンサート」を開けの声もかかったが、米寿を待たなくても近々実現するかもしれない。

今彼は意欲的に創作活動をしておりこの数年で100曲創作し毎回レッスンで発表してくれる。

老いてますます人生の輝きが溢れてきたのだ。彼ならきっとやってくれると思う。なぜならコンサートで上着を着るのを忘れていても何曲歌った後でも気が付かない、レッスンが終わり人の靴を履いて帰っても次のレッスンで言われても気が付かない、そんな人なのだ。

歌が服を着ているのだ。歌が靴を履いて歩いているのだから・・・

ご連絡

昂 Br・Bs メンバー各位

6 月度のパート練習を下記の要領で行いますので、ご参加の程お願いします。

日 時 令和4年6月14日(火)午後6時

場 所 ねむかホール

練習曲 ① フニクリフニクラ ② 種子 ③ ワクワク ④ 地雷ではなく花をく

ださい ⑤ いのちの歌 ⑥ 出発(たびだち)の歌

以上です。

東尾

(寄稿)

13回コンサートの感想に関するメールの送付 tera1941

私がお世話になっている団体の方に、昂13回コンサートのCDを贈呈したところ、CDを聴いた感想が送られてきましたので参考までに紹介します。

以下の通りです。(文中、○の部分は個人情報に関しますので隠しています。)

〈お言葉に甘えて頂戴して帰った演奏会ライヴCDを聞かせていただきました。

まず、「昂」のみなさんの「歌」への、また「歌うこと」へのお気持ちがストレートに伝わってきようでした。

「キウの鳥の歌」はもちろんです、《歌うの語源は訴う・・・》というのを日々体感されながら歌い続けておられるのでしょう。

創作曲も幾つもあって、素晴らしいと思いました。

演奏会の企画からも、当方、所属の○○○○○とは違って、はっきりした主義主張が感じられます。

いつぞや、演奏会にご招待されて、拝聴した時のことを思い出しています。

益々のご発展をお祈りしています。〉